

異なる「美」の見方を読み比べ、 伝え方の工夫を考える

目標

●知識及び技能

抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、類義語と対義語、多義的な意味を表す語句などについて理解し、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。
(1)エ

●思考力、判断力、表現力等

観点を明確にして文章を比較し、文章の構成や論理の展開、表現の工夫について考えることができる。
C(1)エ

●学びに向かう力、人間性等

言葉が持つ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしてい、思いや考えを伝え合おうとする。

評価規準

●知識・技能

〔知技1〕 抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、類義語と対義語、多義的な意味を表す語句などについて理解し、語感を磨き語彙を豊かにしている。

●思考・判断・表現

〔思判表1〕 「読むこと」において、観点を明確にして文章を比較し、文章の構成や論理の展開、表現の工夫について考えている。

●主体的に学習に取り組む態度

〔主1〕 進んで文章を読み比べ、学習課題に沿って、自分の知識や経験を結び付けて、考えを書こうとしている。

指導案の概要

本単元は、「黄金の扇風機」と「サハラ砂漠の茶会」を読み比べ、「美」に対する筆者の考えや、その伝え方の工夫について考察することを目的とした学習である。それぞれの文章について、「伝えたいこと」と「伝え方（書き方）」の二つの観点から整理し、文章の構成や論理の展開、表現の工夫に着目しながら比較して読む。「どのように伝えているか」という観点を明確に持って文章を比較することで、それぞれの文章の特徴や伝え方の工夫について考えを深める。また、より伝わると感じた文章を選び、その理由を文章の構成や論理の展開、表現の工夫を根拠として交流する活動を設定した。同じ文章を選んだ生徒どうして考えを共有することで、文章の特徴や表現の効果について多面的に捉えさせたい。

学習の流れ

時	学習活動	学習・指導の具体例	評価規準・評価方法
1・2	①単元全体の学習目標を把握し、本時の目標を確認する。 ②「黄金の扇風機」本文を通読し、「伝えたいこと」と「伝え方」に分けてノート等に整理する。 ③「伝えたいこと」と「伝え方」について交流する。 ④本時を振り返り、ノート等にまとめる。 ⑤「サハラ砂漠の茶会」についても、通読・整理・交流・まとめを行う。	●本単元は、二つの文章を読み比べ、「伝えたいこと」や「伝え方（書き方）」を比較し、自分がより伝わると感じた文章とその理由をまとめて伝え合う学習であることを知る。 ●「黄金の扇風機」を読み、脚注の語句の意味を確かめる。 ●筆者は伝えたいことをどんな書き方や表現で表しているかを整理する。 発問例 「黄金の扇風機」の筆者は、「美しいと感じる」ことについてどのように述べていますか。また、どのような文章の構成や論理の展開、表現の工夫によって伝えていきますか。 ※全てを取り上げる必要はなく、部分的に気がついたことを取り上げて書いてよいと助言する。 ●交流の際、自分の考えに似ているもの、新しく気づいたところ、参考になるものはノートに書き加えていく。 ●「黄金の扇風機」の伝え方でよいと思ったところと、その理由をノートにまとめる。また、伝えたいことについて、自分の考え（賛成・納得・疑問など）も整理する。 ●「サハラ砂漠の茶会」についても、「黄金の扇風機」と同様に、通読・整理・交流・まとめに取り組む。	知技1 (観察・ノート) ●文章にある語句や表現について調べ、理解しているかどうかを確認する。
3	①本時の目標を確認する。 ②どちらかの文章を選び、各自通読し文章にまとめる。	●本時は、二つの文章を比較して、筆者が伝えたいことや伝え方はどちらがよいかを考える学習であることを知る。 ●主に3つの点についてまとめる。 (1)伝えたいことのよいところ、賛成・納得・共感したところ (2)書き方、展開、表現のよいところ (3)「美」についての自分の考え 発問例 選んだほうの文章が読み手に与える印象はどうか、選ばなかった文章と比べてどうかも考えてみましょう。 ※ノートの上半分は今の考えを文章にまとめ、次回は下半分にまとめて、考えの広がりを確かめられるようにさせる。	思判表1 (ノート) ●文章の構成や論理の展開、表現の工夫について考えているかを確認する。
4	①本時の目標を確認する。 ②グループで、前時にまとめた内容を伝え合った後、クラス全体で共有する。 ③学習を振り返る。	●本時は、同じ文章を選んだ人と交流し、考えを広げる学習であることを知る。 ●同じ文章を選んだ人と3～4人のグループを作り、前時にまとめた内容を伝え合う。 ※同じ文章を選んだ人と交流することで、その文章の書き方、展開、表現のよいところを再認識したり、自分が気づけなかったよさに気づいたりさせることに留意する。 ※実態に応じて、違う文章を選んだ人をグループに入れることも考えられる。その場合は、違う意見を受けて自分の考えを深めさせるように留意する。 ●ノートの下半分は本時に伝え合った内容と、伝え合った後の考えについてまとめる。 ●文章の構成や論理の展開、表現の工夫について気づいたことや、自分の考えがどのように確かになったかを振り返る。	主1 (発表・観察・ノート) ●選んだ筆者の文章から読み取ったことをもとに考えを話し合い、考えを広げようとしている。